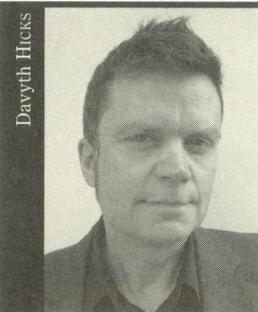


CULTURAL FACTORS IN THE ECONOMIC REVITALIZATION OF CORNWALL

コーンウォールの地域振興における 文化的要因

Davyth Hicks

ダヴィス・ヒックス



[プロフィール]——コーンウォールに生まれる。理学博士。ヨーロッパの民族的少数派・少数言語を代表する「ユーロラング」の局長、および伝統的少数派による「民族共同体および言語に関する欧州議会連携機構」の事務局長を務め、欧州言語のEU および地域レベルでの言語政策の展開に尽力している。欧州評議会の「欧州少数言語事務局」において言語問題の専門家として活躍。政府機関、国際機関、NGO に助言を与えている。「連携機構」では、民族的少数派のための「欧州安全保障協力機構」の高等弁務官、基本権利機構、欧州委員会、欧州評議会の「少数民族保護のための枠組み条約諮問委員会」、欧州少数言語事務局長、欧州評議会の議員連合会議とも緊密に協力している。現在、EU の将来の言語政策を検討するために設立された、欧州委員会のNGO「多言語使用政治機構」の言語政策・計画に関するサブグループの議長、またEU に文化政策関係の情報を提供する「文化プラットフォーム」の委員、「コーンウォール語パートナーシップ」の政策委員も務める。その一方で、プロのロック・ミュージシャンとしても活躍。コーンウォール、ウェールズ、スコットランドの言語機関に勤務したのち、エディンバラ大学ケルト学科で教鞭を執った。

序

コーンウォール（コーンウォール語ではケルノウ、Kernow）は、イギリスを構成する国の一つです。コーンウォールの歴史のカギとなるのは、地理的に

隔離されているということでしょう。コーンウォールは、大西洋に100マイルほど突き出た岩だらけの半島で、ブリテン諸島の最南西端の角に位置します。三方を海で囲まれ、イングランドと接する東側も、半島をほぼ横断して流れるテイマー川により事実上分断されています。

ブリテン島は、旧石器時代に居住が開始され、鉄器時代までにはケルト語の島になっていました。ローマ帝国の支配はエクセターより西には及ばず、ローマの遺跡もほとんど見つかりません。中世初期には、大陸から侵入して来たサクソン人がブリテン島の南東部を掌握しましたが、南西部全域は原住民のケルト人の子孫である、ブリトン人の王国、デュムノニアが支配しました。デュムノニアは、東側のドーセットとサマセットと隣接するあたりを国境として、約300年間、比較的安泰を保ちました。

しかし577年のデオラムの戦いで、ブリトン人はウェスト・サクソン人に敗れ、ブリトン人の領土は南北に分断されてしまいます。この結果、南西部ブリトン人からウェールズ人が分離されることになり、同じブリトン語から派生した南西部のコーンウォール語と北西部のウェールズ語は、別々の言語として発達することになります。しかし1100年代までは互いに話が通じたと思われる。ブリトン人とイングランド人の戦いはその後も続きましたが、800年代にはイングランドのウェセックス王国がさらに西方へと拡張し、ついに936年には、コーンウォール人はおそらく昔のブリトン人の首都であったエクセター（ケレスク、Keresk）をはじめとするデヴオン全域から追い出され、南西部ブリトン人の独立国は、コーンウォールの土地に縮小されました。コーンウォールとイングランドの国境はテイマー川と定まり、今日に至っています。

コーンウォールがイングランド王国の管轄下に入ったプロセスについては、議論が分かれています。コーンウォールはアングロ・サクソン時代には「西部にいるブリトン人」という意味で、ウェスト・ウェールズと呼ばれていました。イングランド王室に従属してからも、独自の名称や地位を持ち、ごく初期には独自の教会規定もありました。コーンウォールは有数のスズの産地で、スズ鉱山の区議会のもとで憲法規定ができました。このスズ鉱区議会の起源は、コーンウォールとデヴオンのスズに関する利権を分離した12世紀末の規定にあり、これがコーンウォールの慣習法を保持するための独立した議会へと発展しました。そして1337年以降、中世の後期にかけて、コーンウォールは「準独立」

英国王室領でした。

コーンウォール人の独自のナショナリティは、自他ともに認められています。1535年にイタリア人の歴史学者ポリドーレ・ヴァージルは、「ブリテンは四分割される。それぞれの地域にイングランド人、スコットランド人、ウェールズ人、そしてコーンウォール人が住んでいる。彼らは言語・風習・法例において、互いに異なっている」と述べています。コーンウォール人を作ったのは歴史と言語と文化であり、これは今日、コーンウォールの活気あるカルチャー・シーンに反映されています。

今日のコーンウォールでは、一年を通じて、各地でさまざまな活気あふれるカルチャー・イベントが行われ、コーンウォール内外から何千もの参加者を集めています。イベントの内容は、現代音楽の大規模なフェスティバルから、異教時代のケルトの過去へと遡るパドストウの五月祭のような伝統的な祭りまでさまざまです¹。今日お話しするのは、このようなイベントが、コーンウォールの経済振興にいかにか寄与するかという問題です。

議論・検討するのは次のような項目です。

- ・ 伝統的なコーンウォールの文化活動
- ・ 経済振興への「文化」の影響
- ・ 文化産業へのEUの資金援助の影響
- ・ 現在の課題
- ・ 強い自治権が経済振興に及ぼす利益に関する、ヨーロッパにおける最良の実践例
- ・ 地域言語／民族言語が、地域振興にとっていかなる経済的資産・推進力となるかに関する、ヨーロッパにおける最新の研究

1. コーンウォールの文化的イベント——概略

コーンウォールの豊かな歴史・言語・文化と関連した文化イベントが、一年を通じて数多く催されています。古くから続いている祭りもあれば、復興され

た慣習もあります。

パドストウの五月祭

おそらく最も有名な例は、パドストウで開催される、オビー・オース (Obby 'Oss)²と呼ばれる「馬」が呼び物の五月祭でしょう。二つのチームが最高の「馬と楽団」という榮譽をかけて競い合います。このイベントは、古のケルトにおいて一年の半ば、夏の始まりを祝う五月朔日のベルテネの祝祭に由来し、この日は、この世とケルトの異界が触れ合う時だと考えられています。

パドストウの祭は、伝統的には、世界各地に離散したコーンウォール人が故郷に戻って来る機会であり、比較的最近までローカルな祭りでしたが、観光産業の拡大とともに、今やコーンウォール人だけでなく、他所から何千人もの人が集まってくる、大変人気のある祭りになりました。

ペンザンスのゴロワン祭

ペンザンスで開催されるゴロワン (Golowanはコーンウォール語でGoel Yowann、「夏至」の意味)の祭りは、6月23日から28日の期間に祝われ、聖ヨハネ祭の前夜/夏至祭前夜の23日の晩には、コーンウォール全土で大かがり火が焚かれます。

現在行われているペンザンスのゴロワン祭は、既存の伝統に基づき、バンド演奏や行進のあるフェスティバル仕立てにしたものです。

ゴロワン祭は、ペンザンスのコミュニティが昔から祝ってきた聖ヨハネ祭/夏至の祝祭をもとに、過去と現在を融合させているのです。ゴロワン祭には何百人もの地元のパフォーマーたちが参加していますし、国の内外からのアーティストも歓迎されています。

祭りの経済効果について、ペンザンスのゴロワン祭とモントル祭³の主催者はこのように言っています。「昨年、祭りの期間に落とされるお金について暫定的な調査を行いました。例えば、一人あたりの平均消費額は30ポンドで、モントルの前夜祭には3,000人の参加がありますから経済効果は9万ポンドになります。より大規模なイベントなら何百万ポンドにも膨れあがるでしょう。たとえばゴロワンの中心であるメイジィ・デイ⁴は7万人を集めますから、210万ポンドが消費されると推定されます」。

他の伝統的な祭りとしては、モントルの冬至祭⁵、マウザルのトム・ボー
コックの冬至祭⁶、ボドミン・ライディング⁷、トレヴィシック・デイ⁸、ハ
ロウィンの祭りアラントイド⁹、ファリー・ダンス¹⁰の五月祭などがあります。
すべてコーンウォール独自の伝統行事ですが、誰でも参加することができ人気
があります。これらの祭りはコーンウォールの暦で一年の節目を記していますが、
同時にケルト人にとって特に重要だった季節の節目でもあり、ケルトの伝
統を継承しているわけです。

聖ペランの祝日 (Dydh Goel Sen Peran)

復興した祭りのうち特に成功した例として、コーンウォールの守護聖人、聖
ペラン (コーンウォール語では Peran、英語では Perin) の祝日があります [3
月5日で鮫夫たちの休日]。ペランは、伝説によれば、アイルランドからコーン
ウォールへやってきた聖人の一人ですが、そのなかではもともと有名です。聖
ペランの祝日はコーンウォールで大変人気があり、「ペラントイド」とはこの
祝日の前の週の呼び名です。コーンウォールだけでなく、国外でもコーン
ウォールの移民たちの大きなコミュニティがあるところでは、コーンウォール
をテーマにした多くのイベントが行われます。

聖ペランの祝日の最大のイベントは、聖ペランの十字架への行進です。何千
人もの人が黒、白、金色の衣装に身を包みコーンウォールの旗 [聖ペランの旗]
を持って参加します。近年は、この行事の際に、聖ペランの生涯についての劇
が、コーンウォール語で演じられています。

ゴルセズ・ケルノウ (Gorsedh Kernow)¹¹

このフェスティバルは、ウェールズのゴルセズの祭典から派生したもので
すが、それとは異なる独自のアトラクションになっています¹²。ゴルセズ・ケ
ルノウは、コーンウォールの民族的ケルト精神の維持、つまり文学、アート、音
楽、歴史の研究を奨励し、コーンウォール語の学習と使用を促進すること、そ
して他のケルト語圏との連帯を強めることを目的としています。このフェス
ティバルでは、ケルト語圏の約60の文化団体が一同に会し、重要な文化的推
進力になっています。毎年ゴルセズの儀式はコーンウォール人にとって大きな
アトラクションとなっており、賞の威光も高まりつつあります。

現代のコーンウォールの文化活動

コーンウォール・フィルム・フェスティバル (Goel Fylm)¹³

コーンウォール・フィルム・フェスティバルは、コーンウォールのみならず世界中で制作された映画が集う、毎年恒例の映画祭です。フェスティバルでは地元初公開、あるいは国内初公開の映画の上映会、専門家養成のワークショップ、レクチャー、パーティが開かれ、イギリスの主要な映画業界の専門家たちとのネットワークづくりの機会となっています。この映画祭は、コーンウォール語の映画制作のために、人材と資金援助とを集約する先導役も果たしています。

ギグ・レース、テート・ギャラリー、エデン・プロジェクト

コーンウォールのパイロット・ギグ・レースは、コーンウォールで急成長中のスポーツです。パイロット・ギグ・クラブの歴史は、コーンウォールやシリ諸島沿岸を走行する船が、水先案内人の助けを借りて、危険な海域を切り抜け、安全な港や航路を見つけなければならなかった時代に遡ります。

伝統的な行事に加えて、コーンウォールには新たなアトラクションもつくられています。セント・アイヴズのテート・ギャラリーがその一つですが、ここには、19世紀のセント・アイヴズにあった芸術家村の有名なアーティストたちの作品が展示されています。

もう一つ、エデン・プロジェクトは、使われなくなった粘土採掘場跡に作られた近未来的アトラクションで、透明な球体ドームの中にすばらしい温室植物園が作られ、コンサート会場としても使われています。テートとエデンは、コーンウォール人も利用し楽しんでいますが、コーンウォールの観光産業のあり方に関する、外部からのアイデアを具体化した例と言えましょう。

コーンウォールは文化観光のメッカの一つとして、さまざまな方法で独自のブランドをリニューアルしてきました。観光客好みの活動や観光客向けの文化イベントを狙ったものではなく、内側、つまりコミュニティ自体から発展してきたものであり、コーンウォールのカルチャー・シーンの一部として根付いたものなのです。

2. コーンウォール人のアイデンティティ

コーンウォールには強いアイデンティティの意識、歴史遺産と文化があります。世論調査でも、コーンウォールにおけるコーンウォール人としての意識の高まりが指摘されています。

言語

コーンウォール語は、コーンウォールのアイデンティティと文化遺産にとって重要です。この10年、ビジネス、公共機関、一般人におけるコーンウォール語使用は目立って増加しています。2007年に行われた「生活の質に関する調査」によると、解答した人の30%以上が公的な場でのコーンウォール語の増加を積極的に支持しており、支持層の大半は若い世代です。

「コーンウォールの言語戦略」というプロジェクトは、言語の大切さと、それによるさまざまな利益を強調しています。言語はより強固なコミュニティ形成を助け、土地とアイデンティティへの自覚を促す手段です。また若者が新しいスキルを身につけ、オーナーシップの感覚を増大させる助けとなります。

他の言語コミュニティでは、言語と結びついたアイデンティティの強化は、商品のマーケティングの際にプラスに働くことが証明されています。コーンウォール自体のマーケティングにも、文化的観光事業と組めば、地域振興と文化遺産にプラスになります。

2003年にコーンウォール語は「欧州地域語少数言語憲章」のもと、政府によって承認されました。これは歴史的な地域語を保護・奨励し、ヨーロッパの文化的多様性への貢献を奨励するものです。

2009年11月、コーンウォール地方議会は、コーンウォール語政策を採択しました。これは、コーンウォール語をすべての議会出版物や標識に含め、適宜使用することを推奨するものです。これによって、可能なかぎり、新しい道路標識にはコーンウォール語が使われることになりました。

歴史文化遺産

歴史文化遺産は、土地に対するアイデンティティや住民の帰属意識の形成に

重要な役割を果たします。「伝統宝くじ基金」による国の調査で、地元住民のほぼ4分の3が、歴史的景観への投資により、地元はより魅力的になると考えており、61%がより住みやすい場所になると考えていることがわかりました。

コーンウォールの歴史文化遺産は、伝統的なコーンウォールのシンボルである聖ペランの旗から、独自の文学、フォークロア、伝説、コーンウォール方言による物語に至るまで、多様なものです。コーンウォールに特徴的な文化としては、コーンウォール音楽、ゴルセズのようなケルト的慣例、そしてコーンウォールのスズ鉱業に由来する工学、発明、技術などが挙げられます。

そのケルト的背景を反映した特徴的な歴史的要因など、コーンウォールの独自性が認識されたことにより、コーンウォールはヨーロッパの地域財政支援を受けられるようになりました。

歴史文化遺産には、保存、アーカイブ、ミュージアム、ギャラリー、歴史的な自然景観や海洋景観、考古学などがあります。その各々が歴史文化遺産が経済的再生の原動力となるための貴重な役割を果たすのです。

3. コーンウォールにおける文化観光事業の影響

「コーンウォールにおける文化観光の重要性について」という調査によると、環境や文化イベントが、人々がコーンウォールを訪れたいと考える理由の上位に入っています。「アートや文化的イベント」、「風景」、「海岸」が、回答者がコーンウォールに観光客を惹きつける理由として挙げた上位の3つです。

コーンウォールを訪れる主な理由として挙げられたものは次のとおりです。

- ・アートや文化的イベントへの参加（回答者の80%が1回挙げている）
- ・コーンウォールの風景（71%）
- ・ビーチや海岸（69%）
- ・コーンウォールの歴史文化遺産（35%）
- ・コーンウォールの清浄な空気（27%）

コーンウォールの産業景観も、2006年に世界遺産に指定されたことから、国際的にその重要性が認識されています。この地位によって、これらの自然的・文化的景観が国際的にも優れた価値を持つものであることが認められ、保護や保存の対象となるのです。世界遺産という地位は、コーンウォールのスズ鉱業が世界的に見ても優れた文化遺産であることを認められ、コーンウォールのスズ鉱業の歴史的景観やその主要な建築物の重要性と、それが技術革新や科学的研究において果たした重要な役割が認知されるということなのです。

文化はコーンウォールの経済に重要な貢献をしています。娯楽と文化は、一般家庭の週単位の支出において、交通費に次いで二番目に高い項目です。

文化活動の経済的貢献度は、営業実績、雇用率、支出額の観点から計ることができます。クリエイティブな産業での仕事は、その他の経済と比べて二倍の成長率を示し、20人に1人がクリエイティブな職業についているという統計があります。

国家統計局によるデータでも、コーンウォールの雇用に文化・創造的産業が果たす役割が実証されています。コーンウォールとシリー諸島では、この部門で約2万7,300人の雇用があります。観光事業一般は、コーンウォールの経済にとって最大の貢献をしており、2007年には550万人の観光客が訪れ、16億ポンド〔2,100億円〕規模の産業であると見積もられています。

コーンウォールにおける文化観光客のより広範な経済的利益

文化的イベントは、人々がコーンウォールを訪れる機会となる重要な推進力です。

1. 文化観光客は、「一般の」観光客より平均して使う金額が多い。飲食物、買い物に使う金額は「一般の」観光客の約二倍である。
2. 文化観光客は、宿泊費にもより多くの額を使う。彼らは平均して一人24ポンド〔3,120円〕使うのに対して、「一般の」観光客は一人頭16ポンド〔2,080円〕である。
3. 地元の店やレストランでお金を落とすだけでなく、文化観光客はコーンウォールの特産品を探して購入する可能性が高い。回答者のほぼ半数が、滞在中に文化的な品物を買う予定であったり、すでに

購入している。

4. 調査対象となった文化的な観光客の大半は、翌年に同じようなイベントに参加するためにコーンウォールを訪れるつもりだと語っており、84%がその可能性が高いと言っている。楽観的な観測ではあるが、これはさらに960万ポンド〔12億6,900万円〕の経済効果を生む可能性がある。
5. 文化観光客はオフシーズンに来る可能性が高い。回答者の20%が過去5年間にコーンウォールに冬か春に訪れている。文化観光事業はコーンウォールの観光産業の持続的成長に大いに貢献している。これが成長市場であり、文化観光客がより多くのお金を使い、より長く滞在するということは明白である。
6. 文化的イベントやフェスティバルは、コーンウォールが生活と仕事の間として活気ある場所だという全体的なイメージづくりに重要な貢献をしている。

海外からの来訪者の多くは、ドイツ、アメリカ、カナダ、デンマークから来ている。

4. ヨーロッパ「オブジェクティブ1」とコーンウォールの文化部門への集中財政支援

欧州地域開発基金および欧州社会基金「オブジェクティブ1」などのヨーロッパの財政支援が、コーンウォールにおける雇用、経済成長、粗付加価値に及ぼす影響に関する研究によると、文化を重視したクリエイティブなプロジェクトは、明らかに経済的發展に影響を及ぼしています。コーンウォールでの事例はまた、これという大都市圏をもたない小さな国や地域で、どのように戦略が展開され得るかを示しています。

約430万ポンド〔5億6,725万円〕が、2000年～2006年の期間にコーンウォールのクリエイティブな産業に、330万ポンド〔4億5,534万円〕が投資計画に、

988万ポンド〔13億3,962万円〕がビジネスと技術支援のプログラムに投資されています。ビジネスと技術支援への988万ポンド〔13億3,962万円〕のEU資金の投資は、推定104万ポンド〔1億3,725万円〕の臨時収入を生みました¹⁴。特に成功した点としては、この新たな取り組みにより、コーンウォールの若者にとってコーンウォールが生活の場としていっそう魅力的になったということでしょう。

コーンウォールは、ケルト的な歴史文化遺産という土台を活用して、ヨーロッパの財政支援を獲得しました。長年コーンウォールはヨーロッパの財政支援を取り損なってきましたが、それはコーンウォールがイギリスの豊かな南西部の一部としてカウントされていたからでした。しかし、活動家たちが国内総生産の差を公表し政府に訴えた結果、コーンウォールは別個に査定されることになりました。

その結果、コーンウォールの比較的低い国内総生産が審査対象となり、コーンウォールはEUの財政支援を受ける資格を得ました。これは他の民族的に独自な小集団や地域においても起こりうることです。国家内では統計的に表面化しないため、また政治的自立性が欠如しているために、財政支援から除外されてしまうという結果になることがあるのです。

5. 課題

自治——政治による文化のコントロール

しかしながら、問題もあります。もしヨーロッパの支援資金運営を自らコントロールできるのであれば、コーンウォールはずっと上手くやっていたでしょう。将来に向けて、コーンウォールの文化的発展を確実にするためには、より大きな政治的自治権を持ち、文化や文化観光事業の戦略的計画において、独自の行動が出来なければなりません。ヨーロッパの財政支援は、いわばコーンウォールの家計の一部となったわけですが、このままではそれを監視することもコントロールすることもほとんど出来ないのです。

観光事業の所有権

コーンウォール人が自ら観光事業をコントロールすることも不可欠です。そうでないと、戦略的發展もできないし、コーンウォールの人々に利益をもたらすこともできません。伝統的なコーンウォールの観光事業は、外国人に所有される傾向にあり、したがってその利益はコーンウォールから流出しつつあります。ギリシアやバレアレス諸島（スペイン）では、ビジネスと不動産は地元民が大半を所有しなければなりません、コーンウォールはこうした事例を見習うべきでしょう。コーンウォールにとって、これまで観光事業は頭痛のたねでした。というのも、観光事業はコーンウォール人に低賃金の季節収入しかもたらさず、また一方で、伝統的な産業は衰退し、地元の文化は脇に追いやられてきたからです。コーンウォールへの投資と自立性の増大により、コーンウォール人は文化産業の主導権を握り、自分たち自身の利益のために運営できるようになってきています。その結果、コーンウォール人が管理するイベントに、文化観光客を動員できるようになってきているのです。

コーンウォール人のために創出した文化、文化的観光事業の所有権

あるコーンウォール人の研究者は次のようにコメントしています。「観光事業が地元文化にもたらす利益を強調する際には、観光事業が地元文化を、住民の生きた慣習ではなく、観光客の消費財へと変えてしまうことはない、ということを確認する必要があります。コーンウォール人にとっての文化と、消費のための文化は違うのです」。

ゴロワン祭の主催者はこう言っています。「最大の経済的利益をもたらすのは、社会資本および文化的資本の増加であると思います。特徴のはっきりしたコミュニティほど、部外者には魅力的に映るので、文化的観光事業は一般的な観光事業よりはるかに持続可能であり、人々からも歓迎されます。だから私は、コーンウォールの政治運動がなすべき最重要事項は、すべての人に開かれたコーンウォール文化の振興であり、テートやエデンなどのような外部の人々にわれわれの文化資源を支配させないことだと考えているのです」。

6. 展望——自治、ヨーロッパにおける地域振興の最良の実践例

今日のヨーロッパでもっとも裕福な地域を見てみると、そこはたいがい強い自治権を持っている地域です。自分たちで課税をコントロールできる自治体は、自分たちに適した経済計画が可能です。たとえば、かつてはオーストリア領で、現在はイタリア領であるドイツ語圏の南チロルは、長年にわたる実質的な政治的自治を経て、ヨーロッパでもっとも裕福な地域の一つとなっています。

欧州評議会の欧州地方自治体会議の最近の報告書は、この自治のもたらす恩恵を強調しています¹⁵。それは、文化は活性化の機動力となり得るが、その恩恵が十分に実現されるには、文化的活力の舵取りと管理が可能な実質的な自治権を地方政府に与えることが必要だと強調しているのです。

7. 地域語・少数言語、地域振興への経済的利点

次に、実質的な自治権と連動した地域言語が、地域振興にもたらす利益に関する、欧州地方自治体会議（CLRA）の新しい報告書について簡単に議論しましょう¹⁶。「少数言語——地域発展の資源」というこの報告書は、ヨーロッパの地域語と少数言語を、ヨーロッパの地域発展にとって貴重ではあるが、しかし十分に活用されていない資源と位置づけています。

言語的少数派は、経済交流、特に文化事業において重要な役割を果たし、しばしば国境を越えた連帯の立役者となります。領土に存在する少数言語を奨励する地域は、経済成長という利益を得ています。地域語はまた、地域発展に有益かつ持続的な役割を果たしています。というのは、これらの言語を保存することは、将来の世代のために文化を保存する必要を考慮するだけでなく、資源のしっかりとした管理に基づいた長期的な発展戦略をも必要とするからです。

少数言語の教育や公共部門での使用を奨励し、欧州地域語少数言語憲章をさらに活用することで、地元と地域の当局は、地域に強い競争力を与えることが

出来ます。

この報告書を詳細に紹介する時間はありませんが、以下にその所見を列挙してみます。

多言語地域の最良実践例

1. 上手に管理ができれば、多言語話者という文化資産は、地域の持続的経済発展の成功につながり得る。
2. カタロニアや南チロルにおけるような自治権が、特に地域語を話す圏域においては必要である。なぜなら自治権があれば、政治家は地域のアイデンティティとして、多言語主義を奨励する環境を作り出すことができるからだ。立法権をもつヨーロッパの多言語地域が、特に社会経済分野で健全な発展を遂げてきたことは偶然ではない。

結論

1. コーンウォールの文化事業は、経済振興に大いなる恩恵をもたらしています。
2. コーンウォール人が、文化による経済振興の恩恵に浴するには、自から文化的観光事業を所有することが肝要です。
3. 観光客向けに開発された文化活動ではなく、コーンウォール文化の一部として、コーンウォール内部から生み出された文化活動が、発展・支援されることが重要です。
4. ヨーロッパにおける最優良事例は、コーンウォールが文化的観光事業の恩恵に浴するには実質的な自治が必要だ、ということを示唆しています。
5. 地域語再生の努力が、文化的・経済的推進力の役割を果たし、経済振興を拡大します。
6. 民族の言語というのは、その文化のDNAであり、民族文化のあらゆる側面と深くかかわっています。文化の振興は、言語の振興でも

あるのです。

7. 自分たちの文化的アイデンティティにゆろぎがなく、自信を持てる民族は、豊かであると言えます。

(訳：辺見葉子)

注

- 1 A short history of Cornwall from the BBC: http://www.bbc.co.uk/history/british/empire_seapower/cornish_nation_01.shtml
- 2 訳注 Obby 'Oss はHobby Horseが訛ったもの。 http://en.wikipedia.org/wiki/'Obby_'Oss_festival
- 3 訳注 モントル祭は、ペンザンスで毎年12月16日～22日に開催され、ゴロワン祭が聖ヨハネ祭／夏至祭であるのに対して冬至祭である。
- 4 訳注 Mazy Dayを中心とした前後3日間 (Mazy Eve, Mazy Day, Quay Fair Day) は、ゴロワン祭の核であり、音楽やアートの催し、パレードや露店などが多くの人を集める。
- 5 訳注 モントルの前夜祭 (Montol Eve) は使徒トマスの祝日の12月21日、つまり冬至日に行われる。街では仮面をかぶって伝統的な衣装を身につけ、ランタンを手にした人々のパレードが行われる。
- 6 http://en.wikipedia.org/wiki/Tom_Bawcock's_Eve参照。訳注 マウザルの村を飢饉から救ったトム・ボーコック (Tom Bawcock) を記念して12月23日の冬至日に祝われる。Star Gazy pieという伝統的な魚のパイを食べ、ランタンのパレードが行われる。
- 7 訳注 聖トマス・ベケットの祝日である7月7日の後の日曜日と月曜日に、ボドミンで行われる。二つの大きな花輪をかかぎの騎乗パレードが行われる。
- 8 訳注 高圧蒸気動力を発明したコーンウォール人、リチャード・トレヴィシックを記念して、キャンボーンで行われるフェスティバル。蒸気機関のパレードがある。
- 9 訳注 コーンウォール語ではNos Calan Gaeafで、10月31日のSamhain/Halloweenの祭り。コーンウォールでは、聖アレン (St Allen or Arlan) という聖人と結びついて祝われ、Allan dayとも呼ばれる。大きな赤いリングが幸運の印として家族全員に配られる。
- 10 訳注 ヘルストーン (Hellys/Helston) で5月8日に行われる春祭り。一日中ダンスが行われ、踊り手たちはヘルストーンの花であるスズランをつけて踊る。
- 11 <http://www.gorsethkernow.org.uk/english/ceremony.htm>
- 12 <http://www.thisiscornwall.co.uk/news/Gorseth-Kernow-seen-cultural-leader/article-2276771-detail/article.html>
- 13 <http://www.cornwallfilmfestival.com/>
- 14 http://perfect-moment.co.uk/wb/media/download_gallery/pm_cc_report_download.pdf
- 15 <https://wcd.coe.int/wcd/ViewDoc.jsp?id=1534789&Site=CM>; <https://wcd.coe.int/wcd/>

ViewDoc.jsp?Ref=CPR(16)3REP&Language=lanEnglish&Ver=original&Site=Congress
&BackColorInternet=e0cee1&BackColorIntranet=e0cee1&BackColorLogged=FFC679

16 <https://wcd.coe.int/wcd/ViewDoc.jsp?id=1584587&Site=Congress>